

講習指導名	日野自動車安全講習会					作成日	2024年9月5日	
日時	2024年9月4日		6:30	~	18:00	作成者(回覧時戻り)	統括管理者	
場所	日野自動車羽村工場							
テーマ	座学:車両の特性、人間の特性			資料	日野自動車羽村工場作成資料			
	特設コース走行							
	日常点検							
	EDSS,PCS体験試乗							
講師	日野自動車 羽村工場 国内サービスお客様部 後藤正彦 様							
出席者 および回 覧範囲	乗務員	8名					指導主任者検印	
	整備部	1名						
	運行部	1名						
詳細	羽村工場に到着後、国内サービス部お客様センターへ日野自動車送迎バスでの移動。							
	センター内にて午前の部に座学、午後の部に体験と分かれての講習となった。							
	●午前の部 「安全運転においての座学」							
	1.バスの特徴 2.正しい運転姿勢 3.ミラーの死角 4.車両特性に応じた運転 5.正しい車間距離							
	講習内容ではバスの構造上の注意点としてミラーの確認だけでは補えない部分をいかに確認する(目的をもって見るか)を認識した。スピードに関しても速度を抑えることによって認知が出来るようになり							
	認知することによって判断ができる、操作に繋がり事故から回避できるという説明には納得した。							
	「人間の特性についての座学」							
	・「そもそも安全など存在しない」という言葉には衝撃を受けた。では、どうすれば良いのか?							
	「危険を予知し、危険を避ける」これが最も重要である。しかし、人間は失敗する生き物である。							
	弱点(うっかり・違反・本能的行動)を意識し、自己コントロール出来る力をもつ。安全は自分や家族の為であり、「自分は絶対に事故をしない」という強い気持ちを持つようにしていくことが必要である。							
●午後の部 「安全運転体験」	事故の原因は94.6%運転する人が要因であるということを、私たちプロドライバーは認識しなくてはならないと思った。							
	・ミラーの死角「右ミラー」「フロントアンダーミラー」「左ミラー」「バックカメラ」を運転席に座り、実際に							
	どこが死角になるかを体験した。ミラーに映っていないトラックや自転車、ポールなどは右側であれば窓を							

開けて自分の目で確認をする。フロント部分においてはフロントアンダーミラーで確認、左側は目で確認が出来るように速度を落として確認をしかりする。旋回時は巻き込み確認を先にし、オーバーハングは後で確認をする。バックカメラは直近、直下のものは高さが分からない。高い障害物は見えなくなる。その為、バックする前に一度止まって周囲の状況確認をすることが大切である。など教えてもらった。

・特別コース走行6.5M道路幅 1.出発時 2.右クランク 3.左クランク 4.車庫入れ 5.車庫から右折
6.狭い道幅 7.左カーブ 8.停車車両あり と、難所のコースでチャレンジした乗務員は苦戦を強いられました。

詳細 同乗していたインストラクターの方からのポイントを抑えた操作方法や確認方法の助言に従って、みな見事に完走することが出来ました。(当たる部分が一番初めはどこなのかをイメージするとよい)
・EDSS体験・PCS体験 初めにEDSS(ドライバー異常時対応システム)を体験。客席についているボタンを押した場合と運転席のボタンを押した場合と解除方法を体験した。ホーン音が大きく鳴り響き、ハザードランプが点灯を続けた。この音では会社で訓練は不可能だと思った。PCS(衝突被害軽減ブレーキ)体験は迫力があった。まず乗車せずに走行する様子を見た。かなり近い場所で見られて興奮の中、次は実際に乗車して体験した。走行しブレーキが効くまで前方車両に近づいた瞬間は生きた心地がしなかったが、見事成功し手前2.3M付近で停車した。

[インストラクターからの講評]

・皆さん運転は全体的にとても上手に運転をしてくれていました。「目的を持ってしっかり見ること」「確認を怠らないこと」「自分本位にならないこと」ここを大事に守って頂ければ、さらに安全に繋がります。自分の勘に頼って「ギリギリの運転は危険である」という事を認識して下さい。

[感想]

午前中は座学を通して安全に対する心構えを学び、午後は体験を通して自分の認識の甘さや、目標の明確化と自己コントロールの大切さ、安全装置を十分理解したうえで安全を守るという事を理解できたと思う。

この講習で得たものは、これからもお客様や自分への安全に繋がっていくものであると思います。